

問題児の生活指導

(継続研究・第三報告)

I はじめに

われわれは、33, 34年度にひきつづき、35年度も、生徒指導の中で、個人指導、とりわけ、問題児の生活指導の研究と実践を行って来た。

33年度においては、「問題児の早期発見」を中心として、諸テストの実施、個人指導票の作成、事例協議会による事例研究を行った。

34年度においては、指導体制の一部変更(生徒部と指導部の分離)事例研究を主として、「問題児とその指導法」の類型化の試みをすすめてきた。※注1

35年度は、これらの研究と実践をもとにして、①個人相談を始め個人指導を徹底化してゆくこと、②しかし、単なる個人相談だけではなく、集団の指導と集団の中での指導をおしすすめること、③テストの系列化を考えてゆくこと、をめあてとして研究と実践をすすめた。

①は主として指導部が、②は学級担任と指導部生徒部が協力し、③は学部の教育心理学教室の指導助言を得て研究部・指導部が、その研究と実践をすすめ、学年会議・研究委員会・教官会議に報告し、討論してその結果を検討して来た。※注2

以下、その研究・実践の成果を報告し、批評をあおぎたい。

(注1, 注2については、それぞれ本校研究紀要第4集, 第5集を参照願いたい。)

II 本 論

1. 個人相談

昨年度までは、担任の教師と、時によっては指導部やその他の教師が、相談にのり、指導に当たって来た。しかし、そこでは、主として指導的助言といった指導にウェイトがおかれてきた傾向があった。そういう指導ではなく、もっとカウンセリング的な意味での相談が必要ではないか、ということは昨年度からの課題であった。

しかし、本校は校舎設備が整わず、相談室にあてる場所がなかったので、とりあえず、相談箱を設け、相談希望表(図1)を投入させて、応接室又は小会議室を随時使用して、相談に当ることにした。

(図1)

相談希望票	
中 年 組 番 氏 名 _____	ここは書かないこと
1. 相談したいことがら	No. _____
	D.
	M. _____
	P. _____
秘密を厳守しますから、できるだけ具体的に書いて下さい。	

2. 相談したい先生(とくにあつたら) _____	
○とくにない場合には指導部の先生か、ことごとによつてはこちらで考えてみさわしいと思われる先生が相談にのります。	
3. 相談するのに都合のよい日	
イ、 月 日(曜日) ロ、 月 日(曜日) <small>昼食時 放課後</small>	
ハ、別にない、いつでもよい。	
4. 連絡………こちらの都合とにらみ合わせて、なるべく早い機会をえらんで、時間と場所を連絡しますから、その時間に指示された場所に来て下さい。	

連絡票	
殿	
あなたが相談を希望されたことごとについて	
__月__日__時__分から _____でお話ししたいと思いますから来て下さい。	

ところが案外、相談希望者が多く、かつその成果もある程度みられたし、生徒の「悩みとその解決のための調査」(後述)でも、「専門に相談にのってくれる人があり、秘密が厳守され、静かな人目につかない場所があったら」相談にゆきたいと思う生徒が中3, 高1だけで全体の38.5%もあり、高1の女子では51.1%もあったので、相談室を設けることにした。従来の小会議室を改装して、後で生徒編集の学校新聞が「あまり広くないが、床一面にはじゅうたんが敷かれ、窓にはクリーム色のカーテン、花びんにはバラの花が美しく生けてあって室全体によい感じを与えていて、居心地は満点である。」と記してくれたような部屋にした。

来談者のもってくる問題は、勉強についての悩み、友人や家庭についての悩み、自分の性格についての悩み、将来の進路についての相談などがみられる。

相談にあたる教師は、専任のカウンセラーは定員の

関係で得られないので、指導部のものが二名でそれにあたり、必要とみとめたり、生徒の希望によっては、他の教師にも依頼することになっている。いわゆる教師カウンセラーのたてまえをとっているわけであるが、今までの経験では、アメリカやわが国での研究で指摘されている通り、④ホームルーム担任や授業の担任があたり、うまくゆかない場合がある。⑤兼任のため、負担が重くなる。などの問題があるが、⑥二人制のためうまくゆかない、というようなことはみられないようである。

2. 集団指導

個人指導は、単に個人だけの指導だけではうまくゆかない。問題行動をひきおこしている生徒は、自分の内面に問題をもっているわけだが、その原因の多くが、集団の中での何らかの不適應からきているものが多く、又不適應をおこし問題をもっているためますます集団の中でうまくやってゆけないものが多い。それに、集団をよく指導することによって、問題児を発生させる原因のいくらかを除去・予防することができるし、集団全体がかき乱されることをも解決してゆくことは重要なことである。

そのため、集団指導としてのホームルーム・生徒会・クラブ活動や、夏休み中の全員必須の海や山での宿泊訓練・遠足・見学旅行などの行事の中でも、その点にとくに留意している。積極的に生徒達が参加し、自分たちの手で運営してゆけるようにし、又、かねてから注意している「問題児」については、みんなで気をつけて観察し、随時指導を加えるようにしている。

又、集団の構成や、その中でそれぞれの個人の位置を、たゞ単に観察やカンによるだけでなく、もう少しはっきりと確かめるために、ソシオ・マトリクスをつくり、周辺部にいる社会的得点の低いもの（すなわち、社会的にあまり適應してゆけないもの）を見出し、交友関係に気をつけて指導するようにしている。案外われわれが日常の観察だけでは気がつかないもの、或いはむしろ意外とさえ思われるものも見出されて、指導のための貴重な資料として役立つ。

3. 問題児の類型

昨年度、われわれは事例研究による実践と研究の中から、問題児とその指導のための、おおまかな類型を抽出したが、今年は更に、ケース・スタディをつづけ、かたわら諸種の文献をしらべ、又昨年度までのテストに加えて、新しいテストをも加えて、その検証をこころみてきた。

昨年はクレペリン検査と、パースナリティ・インベントリ検査による資料と、その生徒の日常行動の観

察、および指導の結果などから第二報告（研究紀要第5集）にのべたような類型を得た。今年は更にそれに矢田部・ギルフォード・テスト（Y・G・テスト）を加え、「悩みの調査」（名古屋大学教育心理学教室作成、33年度研究紀要、ならびに本稿の後出表 No. 1 を参照）の結果をも加えて検討してみた。その結果大体昨年度の類型はそのまま役に立てられると思われたが、更にそれらを細分化して大体次の5つのタイプをみいだしうるように思われる。

第一のタイプ

- クレペリン検査で異常曲線がみられる。
- Y・Gテストの結果は右下り型である。
- 悩みの調査では、殆んど悩みをもっていない。
- パースナリティ・インベントリ・テストの結果はZ（循環気質）が圧倒的に多く、H（ヒステリー性）がややみうけられる。

このタイプの生徒は、陽気で明るく、悩みをもっていない。このタイプに属して、問題児でない生徒は、積極的・活動的で、ホームルームや生徒会などでの中心人物として活動している。しかし、このタイプの問題児は、落ちつきがなく、自己反省に乏しく、感情的である。

第二のタイプ

- クレペリン曲線で異常曲線がみられる。
- Y・G・テストの結果は右下り型を含む右寄り型が多い。
- 悩みの調査では第一のタイプよりやや悩みの数が多い。
- パースナリティ・インベントリでは、Z・Hがはつきり出、S（分裂質）がややみうけられる。

このタイプのものは、非常に我が強く、よくいえば個性的だが、わがままで、衝動的で、突拍子もないことをやりだしたりする。自己反省があまりみうけられず、しかも自信をもっているものが多く、反抗的になりやすく、指導上もっとも手をやくタイプである。

第三のタイプ

- クレペリン曲線で異常曲線がみられる。
- Y・G・テストでは、やゝ左寄り型を含む中間型が多い。
- 悩みの調査では1、2のタイプよりも悩みの数が多い。
- パースナリティ・インベントリでは、Z、H、Sがまじりあっている。

このタイプのものは、1、2のタイプに近いもの、ややおとなしい、内向的なものがみうけられる。おちつきがなく、やゝめだつが、まわりのものをこまらせるよりも、むしろ自分自身をこまらせている、という

感じの者が多い。

第四のタイプ

- クレペリン曲線で異常曲線がみられる。
- Y・G・テストでは3と同じく左寄り型を含む中間型が多い。
- 悩みの調査では、ある程度あるが、多いというほどでもない。
- パースナリティ・インベントリイでは、はっきりした類型は出てこない。

このタイプのものはいろいろなテストでもあまりはっきりとえられず、又日常の観察でも殆んど目立たないので、気づかずにすむことがある。しかし、このタイプの中から突然相当強度の精神病（分裂症）にかかったものが出たことがある。

第五のタイプ

- クレペリンで異常曲線がみられる。
- Y・G・テストでははっきりした左下り型である。
- 悩みの調査で、悩みの数が非常に多いものは、殆んどこのタイプとみてよい。
- パースナリティ・インベントリイでは、N(神経質)S、が多く、E(粘着気質)が含まれることが多い。

このタイプのものは、前の1～4までとちがって、内向的、反省的で、ひどいものは自虐的ですらあり、悩みをもち、自閉的になり、ひとり悶々としているものが多い。おとなしく、外から普通にみただけでは殆んど分らないが、神経症（ノイローゼ）になったり、悪くすると思いつめて家出をしたり、自殺をしたりするものも、このタイプに多い。

大体以上のようなタイプに分けることができるように思われる。しかし、ここで強くいっておかねばならないことは、このような類型化は、われわれの研究目標にある「誰でも、あまり骨をおらず、くわしい専門知識をもたなくても、やってゆけるような」指導のための方便であり、類型化にはその限界がある、ということである。生徒をいくつかのテストによって類型化し、あるタイプだとレッテルを張ることは、たゞ一応のめやすをつけるためのものであって、それがすべてではない。むしろ、そうした一応のめやすによって、更にその指導を重ね、何故そういう問題行動がおきているのか、ということをおかねばならない。もしそうでないとしたら、こうした類型化はかえって危険でさえある。

4. テストの系列化

3にのべたように、テストは一応のめやすでしかないが、やはり科学的な資料を得、更に、問題行動が表面化しないうちに、問題を内にはらんでいる者を早期

に発見するために、必要なものである。昨年までは、能力の面をみるために知能テスト・学力テストを、情意的面をみるためにパースナリティ・インベントリイ・テスト、クレペリン・テストを、もう少し具体的、力動的なものをつかむために悩みの調査・文章完成法（SCT、簡便な投影法）を主として高校1年を対象として行って来た。高校1年の時がもっとも問題が多いし、指導の必要があると考えた結果であるが、他の学年にもテストを行うことが必要だし、もっとも有効に生徒の実態をつかむためには、いつ、どのようなテストを行ったらよいか、が問題となっていた。本年度、いろいろなテストを実験的に試みてみた結果、施行しやすく、しかも役に立つものとして、次のようものを年間計画としてえらんでみた。

中学1年

- 入学時、（知能テスト、クレペリン・テスト、集団ロールシヤッフ・テスト）
- 4月（親子関係診断テスト）
- 9月（ソシオ・マトリクス）

中学2年

- 4月（Y・G・テスト）
- 9月（ゲス・フー・テスト）

中学3年

- 4月（生活指導テスト（I・C・G））
- 9月（学習指導のための調査）

高校1年

- 4月（クレペリン・テスト）
- 5月（パースナリティ・インベントリイ・テスト、悩みの調査）
- 9月（ソシオ・マトリクス、文章完成法テストB・G版）

高校2年

- 4月（Y・G・テスト）
- 9月（文章完成法M・F版、職業適性テスト）

このようにしたのは次のような諸点を考慮してである。

④ 中学入学時において、できるだけ素質的なものをとらえておきたい。

⑤ 入学後、もっとも痛感することは、子供の性格・学習意欲に対して、親子関係がどうなっているかがきわめて大きな影響をもっていることである。そのため、入学後まづそれをおさえておきたい。

⑥ 中1と高1は、夏休みに山、海に宿泊訓練があるので、交友関係のようすをおさえるため、9月にソシオ・マトリクスを行う。

⑦ 中2の時期は交友関係がとくに強い力をも

問題児の生活指導

ち、^{※注3}この頃から社会的不適応をおこし、後になって問題が顕在化してくるものが多いので、ゲス・フー・テストを行う。

㊦ 高1はもっとも悩みが多い時期であり、問題が顕在化する時期でもあり^{※注4}且つ少数、外部からの新入生が入って来て集団に適應してゆくために困難を感じたりする時期でもあるので、この学年に調査の重点をおいた。

㊧ 高校に入ると、相当自分の問題が意識化される時期でもあるし、且つ深刻化するもので、それを内面的に深くつっこんで、問題の所在と、そのおおよその原因を見当つけるために投影法(プロジェクト・メソッド)としてもっとも簡便で、しかも役に立つ文章完成法を高1・2に行う。ただし重複をさけるためにB・G版を1年に、M・F版を2年に行う。

㊨ 中3、高3は将来への進路指導に重点を置いた。

(注3,注4,これについては後述表No.1, No.2を参照)

以上のテストの系列化は集団的なものであり、その資料をいつでも利用しやすいように図2のような袋をつくり、保管・利用の便を考えた。ロッカーの中に学年・組別に保管し、適宜記入し、利用してゆき、学年が変わったら又くみかえるようにして、中学から高校まで個人資料をまとめられるようにしたのである。

なお、毎年6、7月に行われる教生実習の時に、実習として、各学年に、ソシオ・マトリクス、ツヅキ・アイゼンク・性格検査、知能テストが行われるので、

(図2) 生徒指導資料の袋

指 導 資 料									
姓名 _____ 年度入学 _____									
学 年	組	番	担任					知能	T.E.
中 学	1			親 子 関 係	クレベリン				
	2			Y. G 性 格	ゲス・フー				
	3			I.C.G 性格指導					
高 校	1			クレベリン	INV	PI	SCT	BG	
	2			YG性格	SCT	MF	適 性		
	3								
その 他									
名古屋大学教育学部附属学校									

それをも利用、記入できるように考えた。

しかし、これらのテストは集団的なものであり、必要によっては、個人の深展の心理をさぐるために、絵画欲求不満テスト(P・F・T) TAT, ロールシヤッハ・テストなどをも行ってゆくことにしている。

5. 指導の方向と方法

a カウンセリングと補導

問題児としてわれわれの注意をひくものの問題行動はいろいろある。あるものは粗暴で反抗的であり、あるものは落ちつきがなく失敗ばかりしている。またあるものは学習意欲がなく、華美的な服装をして、いわゆる不良生徒と目されている。他のものは、黙って何もしゃべらないが、欠席や遅刻が多く、試験の答案は白紙を出し、文学書にはかり読みふけている。

いずれも集団の生活をかき乱し、教師の不快感をかい、叱責をうけがちであり、家庭でももてあましていくものが多い。

しかし、これらはみなある内面的問題からひきおこされた結果としての不適応行動である。これをたい責めるだけでは、かえってこじらせるだけであって、原因を除去することはできず、ますます事態を悪化させるだけのことが多い。必要なことは、まず、その原因を除去すること、それによって彼または彼女自身の内面の緊張を解消して、外界と和解し、自分自身をコントロールすることができるようになり、社会的適應行動を恢復してゆけるようにしてやることである。

問題児—問題行動を大別すると次の2つのタイプに分けることができる。(前にあげた5つのタイプのうち1~3が前者に、4~5が後者にふくまれる。)

① 外向的タイプの問題行動

社会の要求を無視し、反抗的、攻撃的になったり、前後の状況を考えずに衝動的に行動し、自分を統御してゆくことができない。

このタイプの問題行動はさらに、その原因として、単純な近道反応としておこってくるものと、おきかえ・反動形式によっておこってくる相当複雑なケースとの二つに分けて考えられるが、いずれにしても、反社会的非行におちいりやすい。

② 内向的タイプの問題行動

①とは逆に抑圧が強すぎて、自信を失い、自己防衛的になり、自閉的、消極的、自虐的になりやすい。現実から逃避して空想の世界に住んだり、それにも失敗すると、神経症になりやすい。

この二つのタイプは現われ方はちがうが、いずれも何らかの原因によって、欲求不満におちいり、その欲求不満の緊張状態に対する耐性が欠けて、不適応状態

におちいつているものと思われる。

これを指導してゆくためには、

㉔、その結果としての行動が非社会的であり、周囲の者も、又結局は本人自身も困ってゆくとしたら、それはそれとして指摘し、注意をしなければならない。

㉕、しかし、実は本人も、それがいけないことだということは知っていることが多い。知っていても、あるいは、知っておればおるほど、ますます誤りをくりかえしていく、という一種の「心の病」にかゝっているのだ、といった方がいいかも知れない。だから、むしろ、叱責することは指導のための機会を失わせることにもなりかねない。まず、とにかく何でも話せる雰囲気をつくり、そこで話しているうちに自分自身で、その誤った事態を自分で洞察してゆく、というカウンセリングの方法が必要になってくる。自分が受け入れられている、という安心感の中で、緊張から解放され、自分の状態を知性的に眺められるようになり、やがてだんだんと耐性を養い、主体性を確立してゆけるようになってゆく。そのための助力をするものとして相談治療、カウンセリングはもっとも有効な方法であると考えられる。

㉖、しかし、カウンセリングは、相談を希望して自発的にやってくるものでなければ有効ではないといわれる。これは、われわれの短期間の経験でもいえることである。相談室にやってくるものは、前述の3での第五のタイプ、5の㉑のタイプのもの、いわゆる「悩み型」のもの（悩んで、もうどうにもしようがなくなって、何とかしてこの窮状から脱出したいと思いつめて、相談にやってくるもの）が多い。だから、忍耐強く、かつ、ある程度の助力をすることによって、相当の成果をおさめることができるのである。

もちろん、一直線にはではなく、その治療経過は迂余曲折し、完全によく戻るまえに、途中で挫折するものもあるが、とにかく何とか一応のみとおしをつけるか、少くとも窮状だけからは脱出して安定はする、というものが多。

しかし、「問題をもっている」とわれわれには考えられる生徒でも、前述の3の第一、第二のタイプ、5の㉑のタイプのものは、悩みをもっていない。自己反省がない、という彼らの特長の通り、自分では問題を感じていないのである。しかも、彼らのほうが、前の「悩み型」のタイプのものよりも、目につきやすく、且つ集団の生活を乱しやすく、教師からも注意されやすい。このような、いわゆる「非行型」の生徒をどのように指導していったらよいか。このタイプの者には、外部的な方向づけ、枠づけの必要があるのではないか

と思われる。前の「悩み型」の生徒が、抑制過剰の傾向があるとすれば、このタイプのものには抑制が不足しているのであるから。しかし、単なる物理的な暴力的な強制は、権威をもちえず、面従腹背という結果になりやすい。どうしても、彼らが納得しうる権威をもっての方向づけでなくてはならない。そのためには、集団の秩序が確立し、集団指導が強化されねばならない。又、このタイプの生徒は運動クラブなどで精力を消耗し、また鍛えられることによって、よくなってゆく場合も多い。そのいみからも、集団指導が必要になってくる。

㉗、前述の㉔、㉕、㉖を適当に使いわけ、しかも統一的な指導がなされるためには、指導の体制が再検討され、㉔はすべてのものに、㉕は主として悩み型のものに、㉖は主として非行型のものに対して行われねばならない。そして㉕を主として行うカウンセラーと、㉖のいわゆる補導を主として行うディーンとは別の人が当ることが望ましいのではないか。又、ディーンや担任教師によって注意や訓戒をうけた後、カウンセラーの方にまわされて、相談—自発的ではないが、いわゆる「呼びだし相談」のやり方も考えてゆく必要があるのではないかと、とも思われる。

われわれの今年度の実践では、この問題は十分に満足できる成果をあげたとはいえない。いろいろ討議した結果、指導部では主として相談を、「非行型」のものに対する指導は生徒部の学年担任やディーン（生徒部長）が当ることになったが、その成果の検討は今後に残された課題である。

b、学年によるちがひ。

生徒を指導してゆく際、注意しなければならないことは、生徒がどのような問題をもっているかをおおよそつかんでおくことである。それとともに、青年前期から中期にかけての青年として、生徒の行動が問題を内にひそめた「注意すべき」問題行動なのか、それとも、青年期特有の発達過程の中で現われてくる不安・動揺にもとづく「正常な」行動なのか、見分けてゆくことが必要である。

また、小学校を卒業して中学校になったばかりの、まだ親との心理的な結びつきの強い中学1年と、青春の動揺のピークともいうべき高校1年と、相当の落ちつきをもち始めた高校3年とでは、問題のありかたも、その処しかたも、相当ちがってゆかなければならない。たとえば、同じ神経症でも、中学の始めのころのものは、単純な周辺神経症が多く、しかもその原因の大部分は親子関係によるものが多く、その原因が除かれれば、すなわち、親の態度があるていど変ることによ

問題児の生活指導

て相当よくなりうる。それが高校生になると、あるものは相当進んだ中核神経症がみうけられ、長期の治療を必要とするものがある。

以上のような観点から、中1から高3までの全校の生徒に対して、悩みの調査(名大教育心理学教室)と、困っていることの調査を行ってみた。その問題と結果は次の通りである。

No. 1 調査票 PL

(一)

- 1 背が低すぎる
- 2 背が高すぎる
- 3 肥りすぎている
- 4 やせすぎている
- 5 身体に人並でないところがある
- 31 色が黒すぎる
- 32 色が白すぎる
- 33 きりょうがわるい
- 34 姿勢がわるい
- 35 体力がない
- 61 よく頭痛がする
- 62 あまり眠れない
- 63 よく病気を患う
- 64 食物に好き嫌いが多い
- 65 疲れやすい
- 91 耳が遠い
- 92 ひどい近視である
- 93 どもることがある
- 94 運動がまづい
- 95 にきびがある

(二)

- 6 神経質である
- 7 物事を余りまじめにとりすぎる
- 8 いつも運の悪い目にあう
- 9 いつも自分が不幸だと感じている
- 10 すぐにあがってしまう
- 36 いつでも失敗をおそれている
- 37 よくしくじりをする
- 38 死の不安におそわれる
- 39 自分が生れなければよかったと思う
- 40 自分がいやだ
- 66 そそつかしい
- 67 空想にふける
- 68 よく物忘れをする
- 69 いやな夢をよくみる
- 70 他の人ほど生活に楽しみがない
- 96 暗いところがこわい
- 97 ひとり残されると不安である
- 98 なかなか決心がつかない
- 99 はずかしがりやである
- 100 すぐ顔が赤くなる

(三)

- 11 嫌いな友達をもっている
- 12 ある人々から嫌われている
- 13 よく議論する
- 14 けんかしやすい
- 15 すぐカッとなる
- 41 よく人からかわられる
- 42 よく人にいじめられる
- 43 よく人からあらさがしされる
- 44 誰も理解してくれる人がない
- 45 一人も仲よしがいい

- 71 あまり強情である
- 72 自分がよく人の話題になる
- 73 すぐ気をわるくする
- 74 友達ができない
- 75 内気である
- 101 他の人達の仲間入りできない
- 102 指導者としてえらんでもらえない
- 103 もっと人にすかされたい
- 104 思うことがよく話せない
- 105 すぐ人のいう通りになる

(四)

- 16 男(女)の友達がいない
- 17 男(女)の友達が多い
- 18 異性との交際を許してくれない
- 19 男(女)の人とうまく話ができない
- 20 男女共学が厭だ
- 46 男(女)が大嫌いである
- 47 男(女)であることが厭だ
- 48 異性がおそろしい
- 49 異性のことをもっと知りたい
- 50 異性のことを聞いたり、口にしたがるのははずかしい
- 76 男(女)の集まっている所ではかたくなってしまう
- 77 からだのことで人に言えない心配ごとがある
- 78 親しい男(女)の人が忘れられない
- 79 異性のことでひとにいえないやみがある
- 80 一生結婚などしたくない
- 106 嫌いな男(女)生徒がいる
- 107 好きな男(女)の先生がいる
- 108 うちで男女を差別しすぎる
- 109 うちや学校で男女が平等すぎる
- 110 同じ学校の中で兄または弟(姉または妹)のように思える人がいる

(五)

- 21 家庭内にゴタゴタがある
- 22 父親がいない
- 23 母親がいない
- 24 両親がいない
- 25 兄弟がいない
- 51 兄弟が多すぎる
- 52 家庭であまり子供あつかいされる
- 53 親がきびしすぎる
- 54 親がちっともかまってくれない
- 55 親が他の兄弟を可愛がる
- 81 親が理解してくれない
- 82 親がよく叱りつける
- 83 親にいけないことがある
- 84 親が信用してくれない
- 85 親の考え方が古い
- 111 家が経済的に苦しい
- 112 親が忙しすぎる
- 113 近所の環境がわるい
- 114 親を尊敬できない

- 115 家から逃げだしたい(六)
- 26 先生がきびしすぎる
- 27 先生が不親切である
- 28 先生と折合いがわるい
- 29 宿題が多すぎる
- 30 家には勉強の場所がない
- 56 学校の成績がわるい
- 57 席次が気になる
- 58 先生が不公平である
- 59 勉強がきらいだ

- 60 学校に行くのがいやだ
- 86 教室内で落ちつけない
- 87 授業の時あてられるのがいやだ
- 88 ものおぼえがわるい
- 89 勉強の時間が余りない
- 90 大嫌いな学科がある
- 116 大嫌いな先生がいる
- 117 先生がわかるように教えない
- 118 組の中に意地悪がいる
- 119 学校の設備が不十分である
- 120 いつも試験のことが心配である

No. 2 困っていることの調査

(無記名)

(中・高) (1・2・3) (男・女)

学校ではこの調査にもとづいて真剣に努力したいと思っています。ありのままに、正直に答えて下さい。

(答え方) 各項目を読み

1. いつも気になって困っているものには ○
2. とても困って「悩み」というほどのものになっているものには △
3. もし文の意味が分らないものがあつたら ×
で、その番号のところに印をつけて下さい。
4. 一でいくつ印をつけてもよいのです。

(順序)

1. 調査票 PL の方を先にやりそれからこの紙をやり、最後に自分の困っていることがどの項目にもあげられていなかった人は、この紙の空白のところに具体的に書いて下さい。
2. (調査票 PL) とある紙の方にも姓名のところは書かなくてもよいのですが、(中・高) (1・2・3) (男・女) だけ姓名の欄に書いて下さい。
3. 3枚目の垢枚の紙は調査とは関係ありませんから、問いに気楽に答えて下さい。尚、これは名前を書いて下さい。

(注意)

調査票 PL の方で男(女)……というところが出てきますが、そこは相当するものを……(男) (女), 男(女)……というふうにかこみなさい。

1. よい習慣をつけたいと思ってつけられなくて困っている。
2. 先生と話しあえなくて困っている。
3. 父と話しあえなくて困っている。
4. 母と話しあえなくて困っている。
5. 両親または片親がなくて将来が不安である。
6. 体が悪いので将来が不安である。
7. 進学か就職を迷っている。
8. 希望する学校へ入学することができるかどうか不安である。
9. どの方面へ進学したらよいか分らなくて困っている。
10. 進学したくないのに周囲の人がすすめるので困っている。
11. 将来の進路の選択について自分の周囲の人と意見が合わなくて困っている。
12. 将来の進路について、自分が何に適しているか分らなくて困っている。
13. 何のために生きるのか分らなくて困っている。
14. 世の中に不合理が多すぎて悩んでいる。
15. 現在の政治が不満でたまらない。
16. 信ぜられる宗教がなくて悩んでいる。
17. 死んでしまいたいような気持ちになることがある。
18. これからの世の中が不安である。
19. 人間とは何ものであるか分らなくて悩んでいる。
20. 思想問題に悩んでいる。
21. 今の道徳に不満である。

(その他)

No. 3 この調査をどう感じましたか?

感じたことがあれば下の答に○印をつけてください。(2つ以上つけてもよい)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 好きだ | 2 きらいだ |
| 3 おもしろい | 4 つまらない |
| 5 すらすら書けた | 6 書きにくかった |
| 7 さっぱりした | 8 気が重くなった |
| 9 ためになった | 10 ばからしい |

No. 4 あなたが気に病んでいることを誰かに話した
いてですか？

次のどれかに○をつけ、話したいなら「 」の中に話したい人を書きなさい。

- 1 話したくない
- 2 どうでもよい
- 3 話したい……………ではどんな人に

[]

No. 1 の結果 (数字は%)

番号	1	中	3	1	高	3	番号	1	中	3	1	高	3
(一)													
(1)	22	22	28	33	18	10	(43)	2	2	5	1	2	1
(2)	2	0	2	1	0	0	(44)	9	7	8	17	10	5
(3)	7	5	7	8	7	5	(45)	2	5	3	10	6	3
(4)	8	9	8	13	3	5	(71)	5	15	12	16	4	5
(5)	7	3	4	3	3	3	(72)	7	6	5	5	2	1
(31)	4	9	5	4	4	1	(73)	9	10	12	13	13	7
(32)	2	2	2	0	2	0	(74)	6	13	10	13	9	5
(33)	4	6	10	10	3	4	(75)	5	12	24	23	9	10
(34)	16	11	15	10	2	4	(101)	2	12	9	8	7	7
(35)	17	19	15	24	14	11	(102)	3	5	4	3	1	0
(61)	8	8	20	16	6	8	(103)	13	20	19	23	14	8
(62)	9	9	5	13	5	2	(104)	7	22	49	46	22	22
(63)	5	1	4	6	1	4	(105)	5	10	6	13	8	6
(64)	36	22	27	18	7	6	(四)						
(65)	21	18	18	40	20	23	(16)	20	14	22	26	21	8
(91)	0	2	6	2	1	5	(17)	9	3	5	4	0	1
(92)	4	2	9	9	7	4	(18)	2	1	2	2	1	1
(93)	5	4	10	8	1	3	(19)	16	22	21	20	9	13
(94)	14	13	16	21	12	8	(20)	6	2	2	4	1	1
(95)	1	5	12	7	0	3	(46)	4	3	4	1	0	6
(二)													
(6)	27	30	28	25	21	11	(47)	13	13	10	4	1	9
(7)	14	13	12	13	7	4	(48)	4	3	0	3	0	1
(8)	17	8	13	9	7	2	(49)	2	4	3	9	7	4
(9)	3	8	6	13	1	3	(50)	5	2	10	9	3	9
(10)	46	47	35	50	19	26	(76)	23	20	26	17	9	12
(36)	19	21	26	37	7	11	(77)	7	1	1	1	3	2
(37)	2	15	17	6	4	10	(78)	20	4	13	13	7	8
(38)	3	4	6	8	6	5	(79)	5	4	8	6	3	3
(39)	9	8	11	13	5	8	(80)	7	3	5	6	3	0
(40)	10	8	12	18	24	16	(106)	16	17	33	26	8	12
(66)	35	23	31	26	18	16	(107)	6	8	8	10	3	3
(67)	23	27	26	38	11	18	(108)	3	1	4	6	2	2
(68)	22	20	18	13	13	9	(109)	0	2	3	1	0	0
(69)	5	7	8	2	6	4	(110)	7	6	8	5	1	2
(70)	9	9	7	18	16	4	(五)						
(96)	10	23	10	17	5	0	(21)	4	6	7	8	11	2
(97)	14	28	19	19	7	7	(22)	0	2	2	2	4	0
(98)	19	14	21	40	21	23	(23)	1	2	1	0	1	0
(99)	15	22	36	32	17	13	(24)	0	0	0	0	0	0
(100)	21	26	35	28	20	11	(25)	5	3	8	5	3	2
(三)													
(11)	30	20	20	22	5	6	(51)	5	2	7	3	3	4
(12)	6	7	15	12	3	3	(52)	6	12	4	14	4	4
(13)	8	3	11	10	2	2	(53)	1	3	2	3	1	0
(14)	14	11	8	7	2	2	(54)	2	1	2	1	0	2
(15)	17	26	33	27	15	18	(55)	4	5	0	2	0	0
(41)	15	14	10	8	2	2	(81)	4	6	4	10	9	4
(42)	3	3	1	2	2	0	(82)	1	5	1	5	1	1
							(83)	4	5	7	14	5	4
							(84)	3	4	8	12	3	1
							(85)	10	14	13	16	15	5
							(111)	2	0	5	7	4	2

番号	1	中	3	1	高	3	番号	1	中	3	1	高	3
(112)	1	2	6	10	6	4	(58)	6	15	8	13	5	2
(113)	10	8	11	14	6	6	(59)	8	8	10	20	12	5
(114)	0	3	6	9	4	9	(60)	3	3	2	4	9	3
(115)	1	0	3	4	3	1	(86)	3	3	11	9	5	4
(六)													
(26)	1	2	1	3	1	6	(87)	23	18	26	32	7	10
(27)	7	5	9	7	4	8	(88)	18	14	21	31	22	17
(28)	1	9	11	11	7	5	(89)	9	9	8	8	6	4
(29)	4	5	1	3	2	0	(90)	45	34	39	40	26	13
(30)	6	4	5	10	10	3	(116)	12	14	18	27	10	7
(56)	33	39	37	33	46	24	(117)	4	6	6	9	6	8
(57)	20	33	16	36	20	17	(118)	14	9	12	8	2	0
							(119)	6	17	24	12	7	3
							(120)	20	35	43	43	24	15

No. 2 の結果

番号	1	中	高	1	3	3	番号	1	中	3	1	高	3
(1)	42	37	34	54	27	27	(12)	18	36	50	59	55	31
(2)	8	8	13	24	19	6	(13)	11	10	19	43	33	15
(3)	5	3	9	16	11	6	(14)	4	15	19	38	25	15
(4)	6	2	5	9	6	1	(15)	27	28	19	31	27	16
(5)	1	2	2	7	3	2	(16)	2	2	3	8	0	1
(6)	3	0	3	6	1	1	(17)	11	15	25	28	24	11
(7)	7	5	5	19	21	4	(18)	17	23	16	32	21	20
(8)	42	53	73	58	50	58	(19)	7	7	11	25	14	9
(9)	14	17	27	45	41	22	(20)	5	2	4	16	8	7
(10)	3	2	2	5	2	0	(21)	6	12	12	8	10	8
(11)	2	4	5	8	4	7							

No. 3 の結果

番号	1	中	3	1	高	3	番号	1	中	3	1	高	3
(1)	7	6	12	6	1	3	(6)	15	22	19	18	10	17
(2)	13	7	16	13	13	9	(7)	19	14	8	17	5	3
(3)	14	8	11	13	7	8	(8)	7	2	4	9	5	5
(4)	20	11	19	17	54	36	(9)	16	18	12	11	3	3
(5)	30	17	17	31	16	17	(10)	14	8	7	10	25	22

No. 4 の結果

番号	中			高			(33年度調査実数)		
	1	2	3	1	2	3	計	高	高
(1)	23	16	3	28	13	19			
(2)	43	26	16	33	20	30			
(3)	20	15	11	32	7	23			
イ	5	4	11	15	11	13	59	28	友人、親友
ロ	5	1	6	6	1	3	22	13	父母両親
ハ	1	0	0	1	1	2	5	2	兄、姉
ニ	0	2	2	9	3	1	17	4	先生
ホ	2	4	3	2	1	2	14	8	信頼、尊敬できる人
ヘ	3	2	5	7	6	3	26	11	よく理解して相談にのってくれる人
ト	2	1	0	2	2	1	8	4	よく導いてくれる人
チ	1	1	3	2	4	4	15	6	その他

この悩みの調査で、更に、もっとも悩みをたくさんもっているという結果のでた中3・高1に対して、悩みの解決のための調査を行なった。それは次の通りである。

問題児の生活指導

無記名 「悩みの解決」についての調査

(男女) ←どちらかを囲む

この前やった悩みの調査をみますと、あなたがたの学年がとくに悩みが多いように思われましたので、それをどのように解決していったらよいか、そのために学校でやれることがないかどうか、考えたいので、この調査をやるのです。ありのままのあなたの考えを聞かせて下さい。(あてはまるところの記号を○でかこんで下さい。)

1. あなたは自分に悩みがあるとき、それをどのように処理していますか。
 イ、悩みながらも何とかやっている。
 ロ、とても困って勉強が手につかない。
 ハ、他のことで気をまぎらす。 ニ、友だちに話す。
 ホ、日記などに書きつける。 ヘ、母に話す。
 ト、父に話す。 チ、兄に話す。
 リ、姉に話す。 ヌ、先生に話す。
 ル、その他〔具体的に.....〕
2. あなたはその悩みについて先生に話して相談したいと思いませんか。
 イ、思わない。 ロ、時々は思う。 ハ、よく思う。
3. 先生に相談したいと思わなかったり、思っても実際にはしなかったりする理由は次のどれですか。
 イ、はずかしいから。 ロ、あとまで変な目でみられるから。
 ハ、生徒に対する理解が不足しているように思えるから。
 ニ、なっとくのいく答をしてくれそうにもないから。
 ホ、先生が親しみにくいから。 ヘ、機会がないから。
 ト、必要がないから。
 チ、自分のことは自分で解決してゆきたいから。
 リ、秘密がもれそうなので。 ヌ、こわいから。
 ル、話す場所がさわがしなかったり、人目についたりするといやだから。
 ヲ、その他〔具体的に.....〕
4. 3であげたような障害が除かれ、
 専門に相談のしてくれる人があり、秘密が厳守され、静かな人目につかない場所があったら、相談にゆきたいと思いませんか。
 イ、はい。 ロ、その必要はない。
5. 青年期には、いろいろと悩みが多いものですが、そのような青年期の心配について。
 I 学校で教えて欲しいと思いませんか。
 イ、はい。 ロ、その必要はない。
 II そのような本を図書室にそろえてほしいですか。
 イ、はい。 ロ、その必要はない。
 III とくにどのようなことについて知りたいですか、具体的に書いて下さい。
 { }
 6. I このような調査やいろいろな検査をうけてどう思いますか。
 { }
 II その結果を知りたいですか。 イ、はい。 ロ、その必要はない。
 III どういう形で知りたいですか。
 イ、全体的なものとして。 ロ、ひとりひとり個人的に。
 IV その他、何か学校で検査をしてもらいたかったり、とくに教えてもらいたかったり、本などで図書室にそなえてほしいものはありませんか。
 7. その他、何でも、学校や先生へ希望すること、知っておってもらいたいことがあったら、書いて下さい。

調査の結果

(%)

項目	中 3			高 1			全 女		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
I.イ	58.5	40.0	48.9	72.8	51.1	63.5	65.4	45.5	56.5
ロ	17.6	15.6	16.6	7.0	11.1	8.6	11.8	13.3	12.5
ハ	17.6	13.3	15.6	35.5	22.2	29.8	27.2	17.7	23.0
ニ	5.8	40.0	21.8	13.5	35.3	23.0	10.0	37.8	22.3
ホ	3.9	26.7	14.4	13.5	33.3	22.1	9.0	3.0	18.5
ヘ	7.8	26.7	16.6	6.7	22.2	13.4	7.2	24.4	1.5
ト	3.9	0	2.0	5.0	0	2.8	4.5	0	2.5
チ	0	4.4	2.2	3.3	2.2	2.8	1.8	3.3	2.5
リ	0	6.7	3.3	5.0	0	2.8	2.7	3.3	3.0
ヌ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ル	7.8	0	4.0	3.3	0	1.7	5.4	0	2.7

項目	中 3			高 1			全 女		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2.イ	35.2	40.0	37.5	49.1	37.7	44.3	42.7	38.8	41.0
ロ	58.8	48.9	53.7	45.7	44.4	46.1	51.8	46.7	49.5
ハ	1.9	4.4	3.1	1.6	17.7	8.6	1.8	9.0	6.0
3.イ	27.4	20.0	25.0	27.1	15.5	22.1	27.2	17.7	23.0
ロ	3.9	6.7	5.2	10.1	17.7	13.4	7.2	12.2	9.5
ハ	15.6	17.8	16.0	15.2	8.8	12.5	15.4	13.3	14.5
ニ	13.7	22.2	17.7	20.3	17.7	19.2	17.3	20.0	18.5
ホ	7.8	17.8	12.5	20.3	17.7	19.2	14.5	17.7	16.0
ヘ	9.8	24.4	16.6	8.4	22.2	14.4	9.0	23.3	15.5
ト	19.6	20.0	19.8	20.3	15.5	18.2	20.0	28.8	24.4
チ	35.2	17.8	27.0	27.1	22.2	25.0	30.8	20.0	26.0
リ	0	6.7	3.1	11.8	6.6	9.6	6.3	5.4	5.8
ヌ	1.9	0	1.0	0	2.2	1.1	0.9	1.1	1.0
ル	3.9	8.9	6.3	8.4	4.4	6.4	6.3	5.4	5.8
ヲ	0	0	0	3.3	0	1.9	1.8	0	0.9
4.イ	27.4	42.2	34.3	35.5	51.1	42.3	31.8	46.6	38.5
ロ	54.8	46.7	51.0	54.2	42.2	49.0	54.5	44.4	48.4
5.イ	35.2	62.2	47.9	55.9	60.0	57.5	46.3	61.1	53.2
Iロ	50.9	24.4	38.5	37.2	33.3	35.5	43.6	28.8	37.7
IIイ	33.3	51.1	41.7	50.8	68.8	59.8	42.7	60.0	50.5
ロ	50.9	33.3	42.6	35.5	22.2	29.7	42.7	17.7	36.7
6.イ	50.9	71.1	60.5	64.4	73.3	68.2	58.1	72.2	64.5
IIロ	39.2	17.7	29.1	28.8	24.4	26.9	33.6	21.1	28.0
IIIイ	33.3	42.2	37.5	49.1	51.1	49.9	41.8	46.6	44.0
ロ	41.1	37.8	39.5	25.4	33.3	31.2	32.7	35.5	34.0

この調査結果から本校の生徒の実態として大体次のようなことがいえると思う。

㊦、殆んどあらゆる領域の悩みが、高1の頃にピークに達し、高2になると大体落ちつき始める。

㊧、男子にくらべて、女子は悩み始めるのが1年ないし2年早い。

㊨、もっとも悩みが多いのは、No.1(ニ)の神経質的な不安や悩みである。これは農村部の同じ調査の結果に比べてはるかに高い。大都市のいわゆる都市文明的現象のひとつといえるかも知れない。それに比して、No.1(四)の異性についての悩みや、No.1(五)の家庭一親子関係についての悩みが、農村部よりも少ない。これは比較的合理的、近代的な人間関係にめぐまれているからだと思える。

㊩、困っていることでは、中3、高3を筆頭に、入学とか、社会に適應していくこととか、進路について、が多いのは、大体予想されることである。それにつづいて、世の中の不合理や政治や社会への不満があり、それとともに、「生きている理由が分からない」「死にたくなる」というのが多いのは、考えさせられることである。

㊪、次に「悩んでいることを、誰かに話したいか」という問いに対して、「話したくない」と答えているものは、学年によってちがうが、大体1～3割で、「どうでもよい」が2～5割、「話したい」が2～3割で

ある。「話したい」と答えているもののうち、「どういう人に」という問いに対しては、友人、親友が圧倒的に多いことは、この年齢層における友人のもつ意味の大きさをものがたっている。次いで、父母が22、先生が17で、33年の調査の時の4にくらべると大分多いが、それでも少ない。ここで、「信頼尊敬できる人」「よく理解し、相談にのってくれる人」「よく導いてくれる人」を合わせると、48にものぼっているのは、33年の調査にもみられた傾向で、何か相談相手を欲してはいる、ということを示すものといえよう。

㉔ 悩みをどのように解決しているかについては、「悩みながら何とかやっていく」が過半数をしめ、「他のことで気をまぎらす」「友達に話す」がそれについている。

㉕ 「先生に話して相談してみたいと思うか」については、「思う」は6%、「思わない」が41%、「時々思う」が49%である。

何故相談しないのか、について、「自分のことは自分で解決してゆきたい」が26%、「必要がないから」が24%であるが、一方「はずかしいから」が23%、「なっとくのいく答をしてくれそうもないから」が18%、「親しみにくいから」が16%、「機会がないから」が15%、「生徒に対する理解が不足しているようにみえるから」が14%を示している。

㉖ 「そのような障害が除かれ、専門に相談にのってくれる人があり、秘密が厳守され、静かな人目につかない場所があったら相談にゆきたいと思いませんか」という問いに、男子は31%、女子は46%（高1の女子は51%）が、はい、と答えている。このことは前にもふれたが、とにかく相談室があれば助力をえられるものがある（もちろん全部が、というわけではない）ことを示している。

㉗ 又、生徒は、青年期の心配についていろいろと知りたがっており、半数以上が、何らかの形でその知識を知る機会を求めている。これは、「道徳」とか倫理とか保健とかの教科、ホーム・ルームや学校図書館との関連において、考えてゆかねばならないことであろう。

c, 外部との協力

しかし、学校は生徒にとっての生活環境のすべてではなく、彼らはむしろはるかに強い力をもつ家庭や実社会の中での影響をうけ、その中で生活しているのである。われわれの指導も観察も限られざるを得ないし、又相当程度の進んだ問題児に対しては、一方ではガイダンス・クリニックや精神科の医師の専門的な診断や治療をあおがねばならないし、他方では補導セン

ターや警察とも協力・連絡してゆかねばならない。

しかし、もっとも必要で、かつ効果の大きいことは、家庭との連絡協力である。生徒は十数年家庭の中で、それぞれの性格を形成して来ており、問題の大半はそこで生みだされ、強められて来たといつて過言ではない。

これを解決してゆくためには、その問題行動をうみだしてきた家庭での親子関係を是正してゆくことが、もっとも必要である。そのために、われわれは次のような方法を考えてみた。

㉘ 保護者会や個人面接の時にそのようなことを話しあう。

㉙ 学校の図書館に「母親文庫」を設置し、青少年の心理や家庭教育についての分かりやすい書籍を父兄に貸出し、できるだけ科学的に、誤ちにおちいらぬよう、またもし誤っていたらなおしていけるよう、考え方の手引を提供する。

㉚ 前にのべたように、親子関係診断テストを行う。

㉛ 生育歴をしらべ、子供たちの過去について予備知識をもっているようにする。

㉜ 「学校便り」を定期的に出して、家庭との連絡に努める。

Ⅲ 結論——残された課題

以上、本年度われわれが実践し、研究してきたことをのべてきたが、もちろん、生徒の指導には限りなくいろいろな問題があり、限られた人員と能力と時間と労力と設備の中で、これを十分に解決したとはいえない。まだたくさん問題が残されている。しかし、それを少しずつでも整理し、系統だてて、できるだけ効果をあげられるように今後も努力してゆきたいと考えている。

さしあたって、解決してゆかねばならない課題として、われわれは次のようなことを考えている。

㉘ 指導体制の再検討

これは、前に「カウンセリングと補導」のところでもふれたが、「相談にのってやる」ことと「秩序だて、方向を与えてやる」こと、すなわち愛と規律の統一を、どのように体制の中で考えていったらいいか、ということである。「叱らずに聞いてやる」ことと、「叱る」ことを統一してゆくことが必要である。

㉙ 学校全体の中での位置づけ

㉘とも関連するわけだが、問題児の生活指導を、学校教育全体の中で、有効に位置づけてゆくこと、又、問題児の治療的指導だけでなく、予防的指導の面からも、集団指導がとりあげられねばならない。又、先の

問 題 児 の 生 活 指 導

調査でもでてきた、青年期の心理についてのインフォメーションをどのようにして与えてゆくか、についても道德教育・自治活動・社会・保健など各教科との連関をどうしてゆくか、ということも大きな課題である。

④ テスター、カウンセラーの問題

指導をすすめてゆくにあたって、痛切に感ずることは、テストやカウンセリングの専門的知識の乏しさと、時間的な労力負担の問題である。これはどこでも現場の共通の悩みだと思うが、どうしてこれを解釈してゆくか、今後の課題である。

⑤ 「問題」児についての考え方

最後に、われわれが考えていることは、「問題」児や「悩み」をどううけとめていったらよいのだろうか、ということである。これが出発点なはずだし、随分素朴な疑問かも知れないが、「問題」をもっていることはたゞいけないことであり、悩んでいることは望ましくないことであり、一刻も早くなくしてゆかねばならないものなのだろうか、ということである。

これについてはもう少しふれたいが、紙数もつきたので、これで割愛せざるを得ない。

ともかく、今後も、これらの問題を解決するよう努力してゆきたい、と考えている。